

会長就任のご挨拶



一般社団法人軽金属学会
会長 平野 清一

この度、熊井真次前会長の後を受け、令和5・6年度（2023・2024年度）の会長に就任することになりました。19人目の会長になります。責任の重さから身の引き締まる思いを感じております。佐々木元、久保田正広両副会長をはじめとする役員の皆様、学会事務局メンバーと力を合わせ、本学会の一層の発展に全力を尽くす所存でございます。会員皆様のご支援・ご協力をよろしくお願い申し上げます。

本学会は、1951年（昭和26年）に軽金属研究会として発足し、今年は72年目になります。現在135社の維持会員、約1700名の会員によって支えられています。会員のうち、約半数が産業界からで、産学官でバランスの取れた構成となっており、産学連携が良い学会として、世界からもしばしば注目されています。対象材料として、アルミニウム、マグネシウム、チタンなど、地球上に多く存在する軽金属に関する特徴ある学会です。

新型コロナに振り回された3年間も終わり、感染は収束に向かっていますが、この間交流方法が大きく変化しました。学会発表のオンライン、あるいは会場に加えてオンライン参加のハイブリッド方式も活用されるようになりました。2022年9月に富山で開催された第18回アルミニウム合金国際会議（The 18th International Conference on Aluminium Alloys, ICAA18）では会場参加360名、オンライン参加117名でした。同年11月に東京工業大学で開催された軽金属学会第143回秋期大会では総参加者515名、このうちオンライン参加が約40%でした。今後、こうしたハイブリッド方式は会場参加しにくい他学会所属の方などの参加を促す効果も期待されます。年2回の学会発表では、引き続き1件20分が割り当てられ、十分な議論をしやすい会でもあります。最近の会員数は漸減傾向ですが、1990年代初めに増加した講演発表数は、過去30年間減ることなく維持しています。

このような状況の中で、熊井前会長のご発案で、昨年度までに2051年の創立100周年に向けた長期課題が検討され、2023年4月に「長期ビジョン」としてホームページに公開されました。これは、総合計画委員会（戸田委員長、前副会長）が推進役で、各常設委員会でも長期ビジョンと今後の方針がロードマップとともにまとめられました。ぜひご覧いただき、活発なご意見をいただきたいと思っております。2023年度以降の活動のベースにしてまいります。今後の社会情勢などによってはアップグレードしていきます。

研究部会活動活性化としては、昨年度後半に先行研究部会制度を新設し、研究部会候補案件の可能性を探るための調査、研究を進め、その結果に基づき、研究部会の発足可否を判断することとしています。例えば、生産技術関連のテーマで検討中です。また、首都圏一極集中の活動ではなく、地域の状況にあった支部活動を積極的に推進し、本部活動に発展することは望ましいと考えています。支部長は他学会支部長とも接触しやすく、将来の活動を見据えて、共同ワークショップ開催など可能です。

人材育成・多様性に向けては、2018年4月から男女共同参画委員会を設立し、男女が共に活躍できる学会活動を通じて、軽金属分野および関連産業の進歩、振興を図ることで社会に貢献していきます。中高生支援として、東海支部では2023年3月に中高生向け見学ツアーを名古屋工業大学にて中部科学技術センター協賛で開催しました。募集定員30名を超える応募45名で、男女比率がほぼ同数でした。多様なメンバーで議論を深めることで、レベルが上がると確信しています。博士課程学生の応援にも注力していきたいと思っております。

国際交流では、国際交流委員会が中心となって、2006年に「第1回軽金属に関するアジアミニシンポジウム Asian Forum on Light Metals (AFLM)」を開催し、これを契機に、2007年から2010年にかけて、アジア各国で毎年、AFLMが開催されました。2012年以降、軽金属学会が幹事となって、ALMA (Asian Light Metals Association) Forumと名称変更して、新型コロナ前までは2年ごとにシンポジウムを開催していました。タイにおいては、2019年に第1回アルミニウム技術セミナーを開催し、100名近い参加で好評でした。今年は、ALMA 2023を11月10日から11日に開催、第2回アルミニウム技術セミナーを9月6日から8日にTISTR (Thailand Institute of Scientific and Technological Research, タイ科学技術研究所)と共催の予定です。

1886年にホール・エルー法の発明によるアルミニウム地金製造の工業化から150年弱、同じ年に製造が始まったガソリン車も電気自動車へ移行していくなど大きな変化の中にあります。こうした中でも軽金属材料はリサイクルしやすく環境問題をはじめとする世の中の動きに対応しやすい素材と考えています。変化する環境の中で、より一層のコミュニケーションの活性化で、議論のレベルアップ、技術課題の発掘、それを支える基盤技術の深掘の促進・継続など、本学会を活用していただくことを期待します。

私は1983年に本会に入会し、2023年で40年になります。これまでの恩返しの気持ちで今後の2年間、少しでも皆様のお役にたてればと考えています。次世代を担う若手研究者・技術者が継続して元気が出る学会にしたいと思っております。会員皆様のご協力をお願い申し上げ、会長就任の挨拶とさせていただきます。